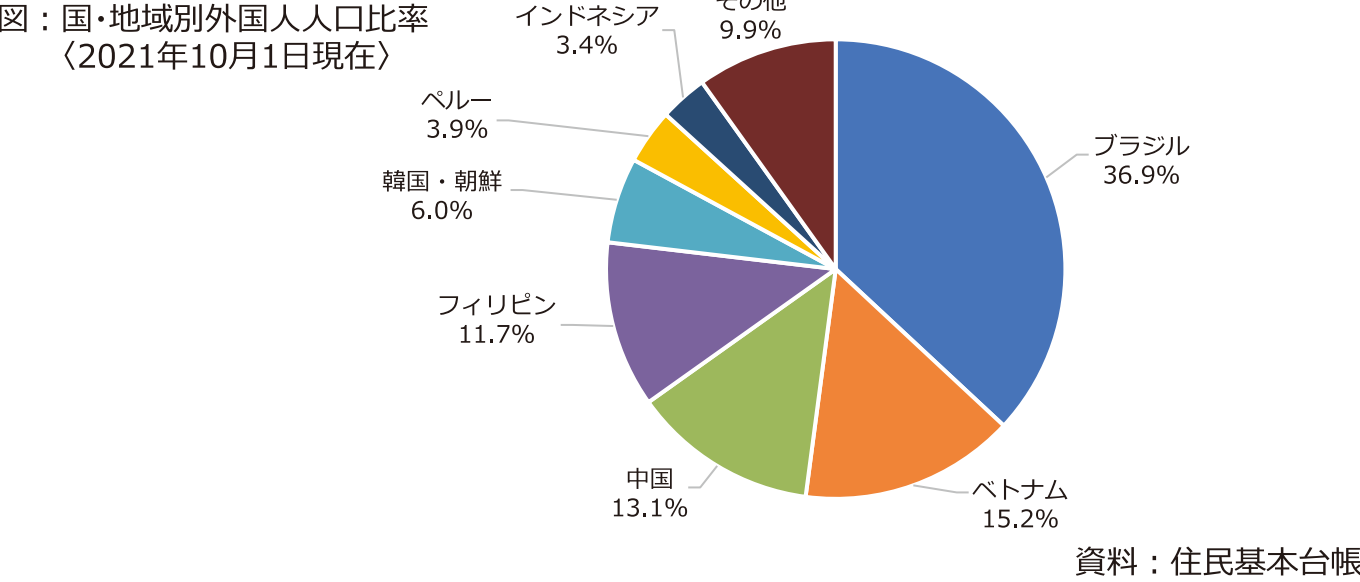


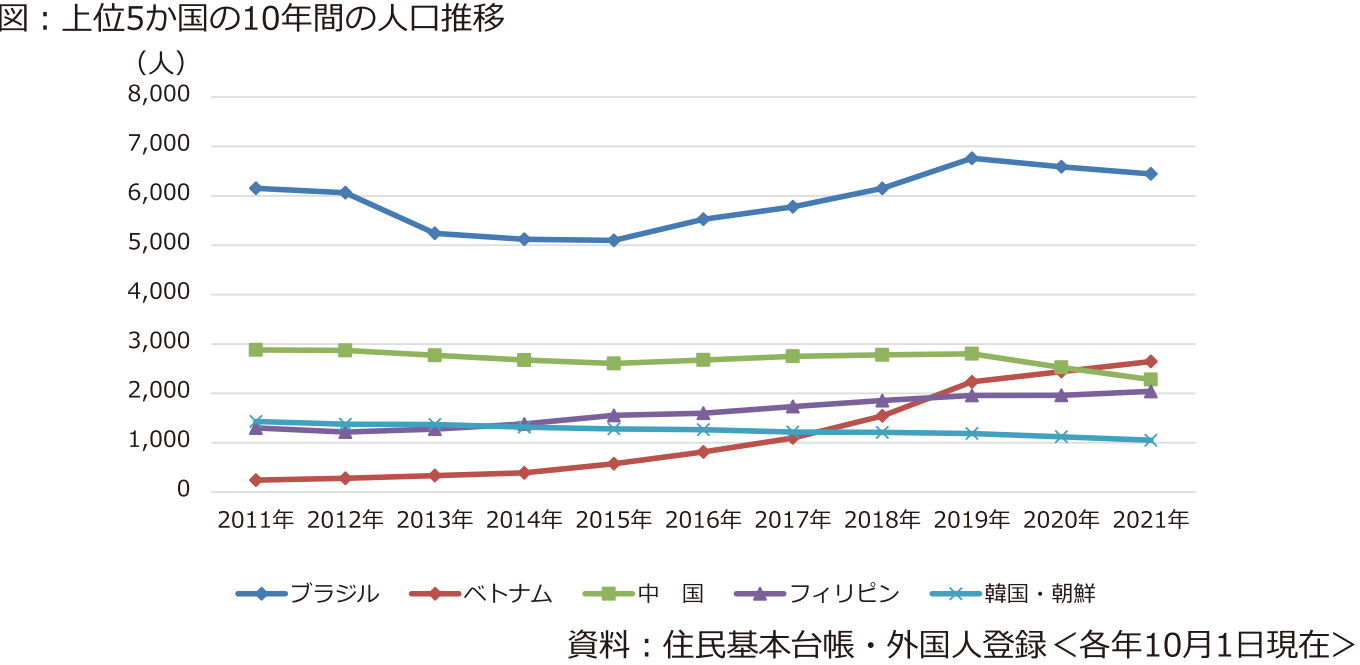
本市における外国人住民の出身国・地域の数、2021年10月1日現在で68か国あり、多様な国・地域から来訪していることが特徴です。

国・地域別の比率は、ブラジルが36.9%と最も高く、2017年10月1日現在と比較し、1.2ポイント上昇しています。また、近年の特徴としては、在留資格「技術・人文知識・国際業務」「技能実習」等の入国増に牽引され、ベトナムの人口が増加しています。2020年12月には中国を上回る15.2%となり、ブラジルに次いで2番目となっています。次いで中国13.1%、フィリピン11.7%、韓国・朝鮮が6.0%となっています。



外国人住民の出身国・地域別に上位5か国の10年間の人口推移をみると、ベトナムの増加が際立っており、順位に変動がみられます。2021年では、ブラジル、ベトナム、中国、フィリピン、韓国・朝鮮の順となっています。

ブラジルは2015年までは減少し続けていましたが、2016年から増加に転じ2019年をピークに再び減少傾向にあります。中国はおおむね横ばいで推移していましたが、2019年以降は減少傾向、フィリピンは緩やかな増加傾向、韓国・朝鮮は緩やかな減少傾向にあります。



概要版

第3次 豊田市国際化 推進計画

2022年3月

第3次 豊田市国際化推進計画

2022年3月発行

発行：豊田市 国際まちづくり推進課

〒471-8501 豊田市西町3丁目60番地

電話：0565-34-6963

ファックス：0565-34-6681

Eメール：kokusai@city.toyota.aichi.jp



ミライのフツをつくらう

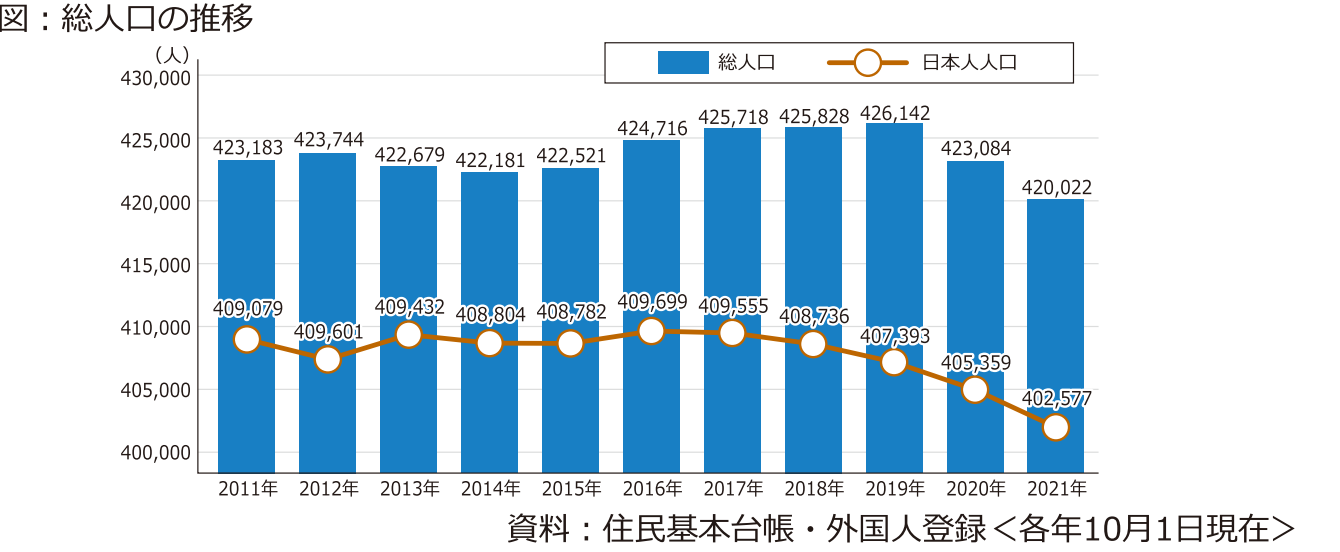


豊田市の国際化の現状

人口

本市の総人口は、2014年以降増加傾向にありましたが、2019年をピークに減少に転じ、2021年の総人口は420,022人となっています。

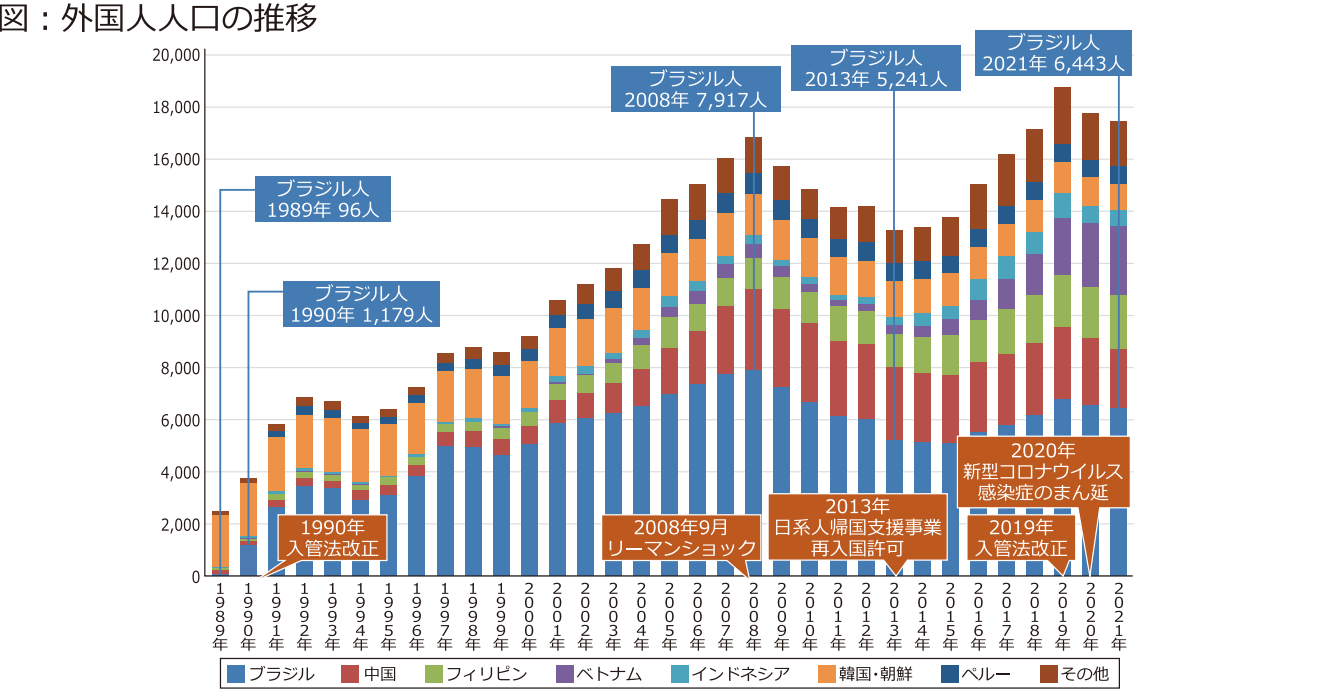
また、日本人の人口は2017年から減少傾向にあることがわかります。



外国人人口の推移

本市在住の外国人の人口推移をみると、2008年のリーマンショックを契機に減少し続けていましたが、2014年以降増加に転じ、2019年の18,749人まで上昇しました（2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向）。

このように外国人人口は長期的な傾向としては増加傾向で推移しており、外国人人口の増加によって本市の人口が維持されています。



多様な市民が活躍できる 国際まちづくりの推進

本市の国際化の状況は変化し続けており、人やモノ、情報が活発に動くような地域における国際化の進展が、まちづくりを進めていくために必要となります。
本計画では、「多様な市民が活躍できる国際まちづくりの推進」を基本理念に掲げ、市民や関係団体と共に「市民や地域が、国際化の一層の進展に応じて多様化する人や社会を受け入れている姿」を目指します。

新たな視点

「相互理解及び意思疎通に関する条例」の理念

2021年4月に施行された「豊田市地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進及び意思疎通の円滑化に関する条例」の理念を、本計画の横断的に係る考えとして位置付け、日本人・外国人ともに、お互いを認め合い理解を深め、相手に意思を伝え合うことができる「心のグローバル化」を進めます。

「豊田市における地域日本語教育の基本方針」に基づく施策の展開

2019年6月に施行された「日本語教育推進法」に基づき、外国人等に対し、その希望、置かれている状況及び能力に応じた日本語を習得するための機会の提供を保障することを念頭に、「豊田市における地域日本語教育の基本方針」に基づく施策の展開と日本語の学習支援の取組を進めます。

計画期間

2022年4月1日～2026年3月31日(4年間)

基本理念に基づく施策を確実に実施するため、2つの基本目標を設定しています。



1 誰もが尊重され、暮らしやすいまちの実現

言語・文化・価値観の違いを超えて互いに助け合い、誰もが暮らしやすく、自分らしく活動ができる、多様な人々にとって魅力あふれる地域社会の実現を目指します。



施策の柱 1 コミュニケーションの円滑化

- ①外国人のライフステージに応じた日本語学習
- ②多言語による情報発信・相談対応



主な取組

- ・外国人の幼児向け日本語教室の開催
- ・外国人児童生徒等への教育推進
- ・とよた日本語学習支援システムの運営
- ・外国人のニーズに合わせた日本語学習支援
- ・「豊田市における地域日本語教育の方針」に基づく施策の展開
- ・多言語化ややさしい日本語の活用
- ・電話・映像による外国語通訳サービス
- ・コミュニケーション支援ボードの運用(災害時)
- ・多言語による119番通報手段の確保
- ・あいち医療通訳システムの活用

施策の柱 2 住みよさの向上

- ①子育て・子どもの教育
- ②防災対策・緊急対応
- ③就労
- ④その他生活情報等の発信



主な取組

- ・外国人青少年学習支援
- ・外国人の子どもの社会適応サポート
- ・多文化子育てサロンの開催
- ・外国人児童生徒等への教育推進【再掲】
- ・外国人への防災啓発
- ・外国人の所属する団体等との連絡体制の強化
- ・多言語による119番通報手段の確保【再掲】
- ・外国人就労支援
- ・介護人材としての外国人受入れ支援
- ・暮らしに役立つ様々な情報の多言語ややさしい日本語での提供
- ・多様な媒体の活用による情報発信力強化
- ・高齢者福祉制度の啓発
- ・医療・保険制度の啓発

施策の柱 3 外国人住民の社会参画・活躍の促進

主な取組

- ・外国人の意見を聴く会の開催
- ・多文化共生キーパーソンと連携したネットワーク強化



2 国際社会及び地域社会で活躍できる人材の育成

姉妹都市交流をはじめとした国際交流を通じ、豊かな国際感覚と幅広い視野を持った、これからの国際社会及び地域社会で活躍できる市民の育成を目指します。



施策の柱 1 国際交流の機会創出と人材育成

主な取組

- ・豊田市デトロイト市姉妹都市交流
- ・豊田市ダービーシャー県等姉妹都市交流
- ・豊田市トレヴェリアン基金奨学生との交流促進
- ・特定の事業に基づく海外都市との交流

施策の柱 2 国際理解教育の促進

主な取組

- ・子ども向けの国際理解教育
- ・市民向けの国際理解の促進
- ・異文化理解の促進



施策の柱 3 国際イベント等での活躍機会の創出

主な取組

- ・国際イベントにおける交流
- ・SDGs関連事業の実施

計画における指標

指標名	基準値	目標値
日本人との交流についてコミュニケーションギャップを感じる外国人住民の割合【出典：第4回外国人住民意識調査】	57.9% (2020年度)	40% (2024年度)
まわりの日本人が友好的であると思う外国人住民の割合【出典：第4回外国人住民意識調査】	61.3% (2020年度)	70% (2024年度)
様々な国の人が市内に多く住むことを好意的に捉えている日本人住民の割合【出典：第23回市民意識調査】	53.2% (2021年度)	70% (2023年度)
相互理解がはかれ、日本人も外国人もともに暮らしやすいと思う住民の満足度【出典：第23回市民意識調査】	3.91 (2021年度) (1～7段階評価平均値)	5.00 (2023年度) (1～7段階評価平均値)
地域の活動(自治区活動や地域の行事など)に参加している外国人住民の割合【出典：第4回外国人住民意識調査】	54.8% (2020年度)	60% (2024年度)
国際交流に関する活動や事業に参加したことのある住民の割合【出典：第23回市民意識調査】	10.0% (2021年度)	20% (2023年度)

